

日立ニュース

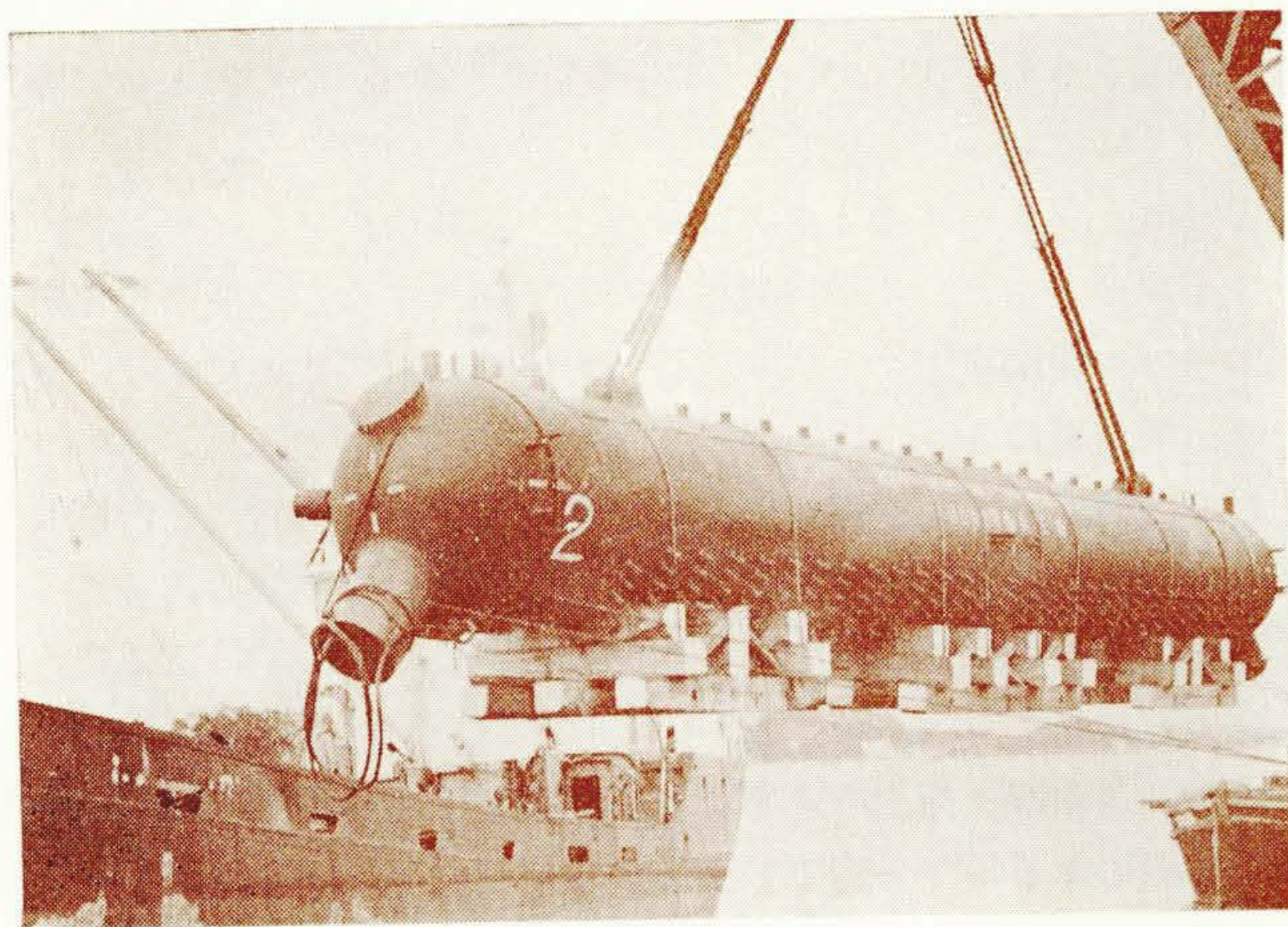
東北電力株式会社 仙台火力発電所納 175MW ボイラドラム完成

このほど東北電力株式会社仙台火力発電所の第3号炉として納められる590 t/h ボイラ用ドラムが日立製作所呉工場において完成、6月13日 呉工場より船積み発送され、7月1日現地においてドラム揚げを完了した。ドラム炉板にはASTM規格A 302 Gr Bをさらに改良した高級材料が、わが国では他社にさきがけて初めて使用され、容量の点でも記録品である。

このドラムは材料の特殊性からくる熱処理法の問題、大形重量品製作に対する曲げ加工の問題、高張力鋼の熔接性など記録品製作にあたって予想される新しい技術的問題点を、ことごとく検討、実験し、解決するなど、万全の処置がとられて完成した。

おもな仕様

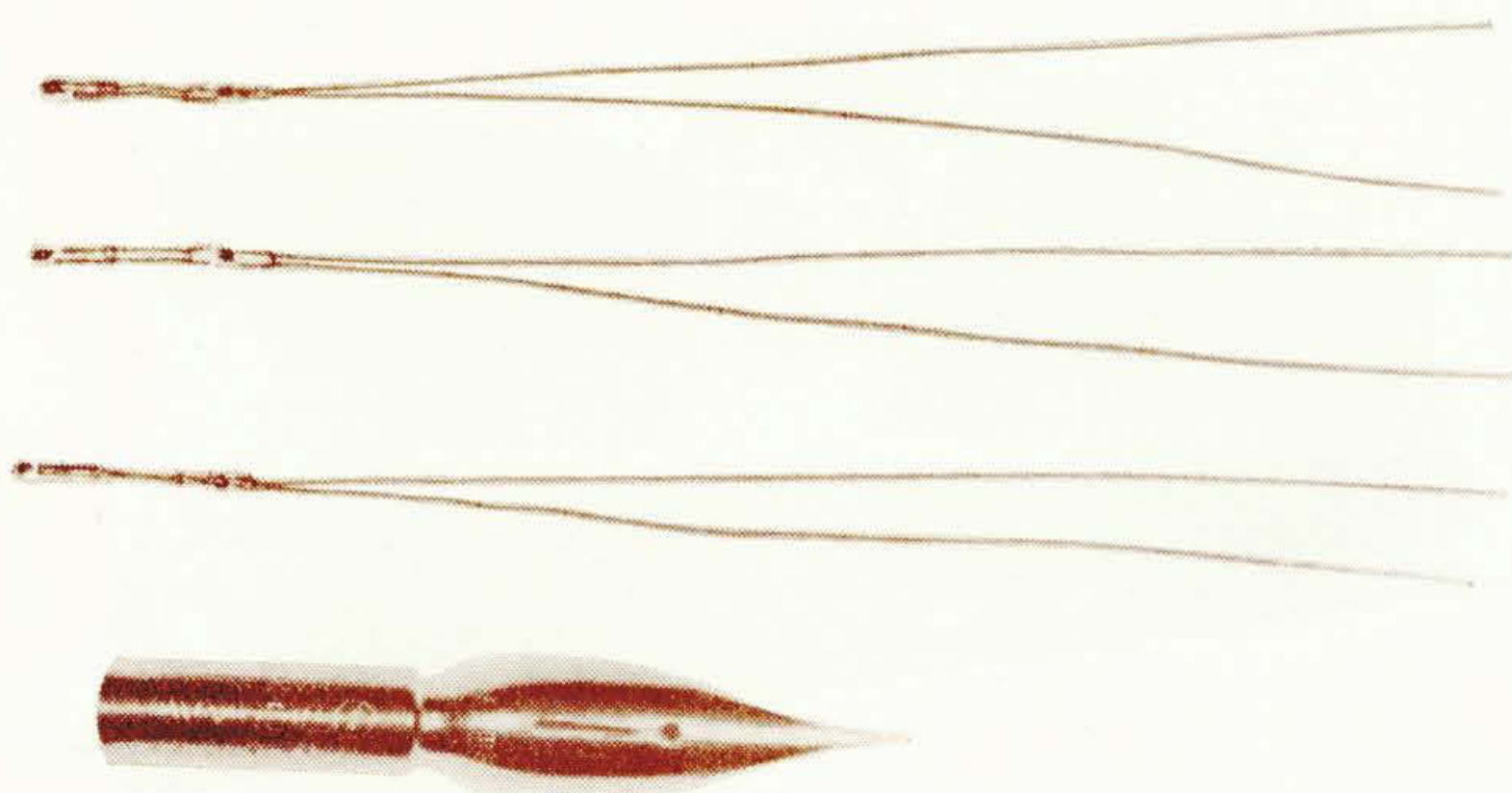
最高圧力		190.7 kg/cm ² g
全長		約19 m
内径		1,676 mm
板厚		156 mm



第1図 現地荷揚中の 590 t/h ボイラドラム

互換性を有する温度計測用サーミスタ「TM-600」

サーミスタは鉄、ニッケル、コバルトなどの酸化物を主体とした負性抵抗体であるが、小形で温度変化に対し敏感に抵抗変化を示す



第2図 サーマミスタ TM-600

ことから、ラジオおよびテレビの温度補償、ならびに各方面の温度計測器に利用されている。しかし従来のサーミスタは個々の比抵抗と温度係数にバラツキがあったため、温度計測器ではサーミスタを取りかえたとき、いちいち計器目盛を較正しなおすわずらわしさがあった。また、電気回路網を用いてこれを補正する試みは行われてはきたが非常にわずらわしく、互換性を有するサーミスタそのものの出現を要望する声は、特に計測器関係者から強く出ている。

日立製作所では、数年前からサーミスタ材料の比抵抗、温度係数の均一化の研究をつづけてきたが、このほど上記要望に応える互換性をもった温度計測用サーミスタ TM-600 の開発に成功した。これは欧米でも例が少なく、わが国では最初のこと、現在、温度計、調節計、記録計などに使用されている。これにより今まで阻害されていた精密測定も促進され、今後の工業計器の発展に大いに寄与するものと思われる。

規 格	
抵抗値	(0°C)..... 6,000Ω ± 1 % (100°C)..... 215.6Ω ± 1 %
サーミスタ常数 B	(0°C~100°C)..... 3,390°K ± 0.3 %
最大寸法	長さ..... 15mm 直径..... 1.5 mm
放熱係数	 (空気中) 1.0 mW/°C以上
最高使用温度	 連続 250°C

南海電気鉄道株式会社納 特急電車用 65 kVA 電動発電機完成

南海電気鉄道株式会社の高野線特急電車用 65 kVA 電動発電機 3台が日立製作所日立工場において完成し、工場試験の結果優秀な成績をおさめて納入された。

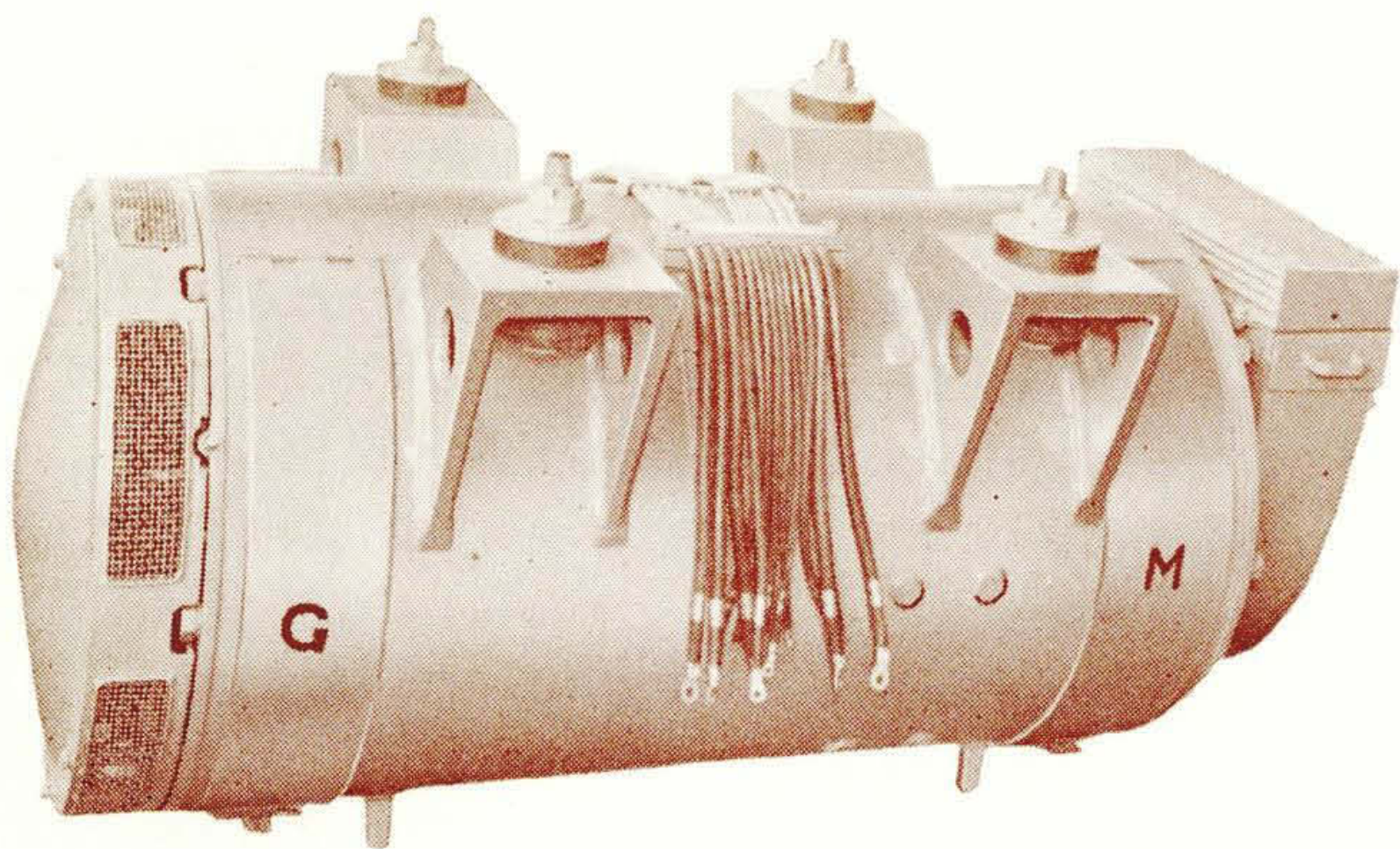
この電動発電機は冷暖房、室内蛍光灯、制御装置、蓄電池などすべての車内設備の電源となるものであり、すでに近畿日本鉄道株式会社の名阪特急ビスタカー用として 70 kVA 電動発電機も納入しており、これらの車両用大容量電動発電機に対する豊富な経験と実績を基礎にして完成されたものである。

電動機は速度制御は LC 共振回路と磁気増幅器により、また発電機出力電圧側には独特の自動方式を採用しており、電車線電圧 650 ~ 350V の変化に対して発電機出力電圧、周波数の変動は +5% ~ -10% 以内におさまるよう設計されている。また電車電圧の急変、冷房回路起動時などの過渡期にもきわめて安定した整流状態を保つことができ、過負荷、接地、再起動などに対しても十分な保護装置をそなえている。

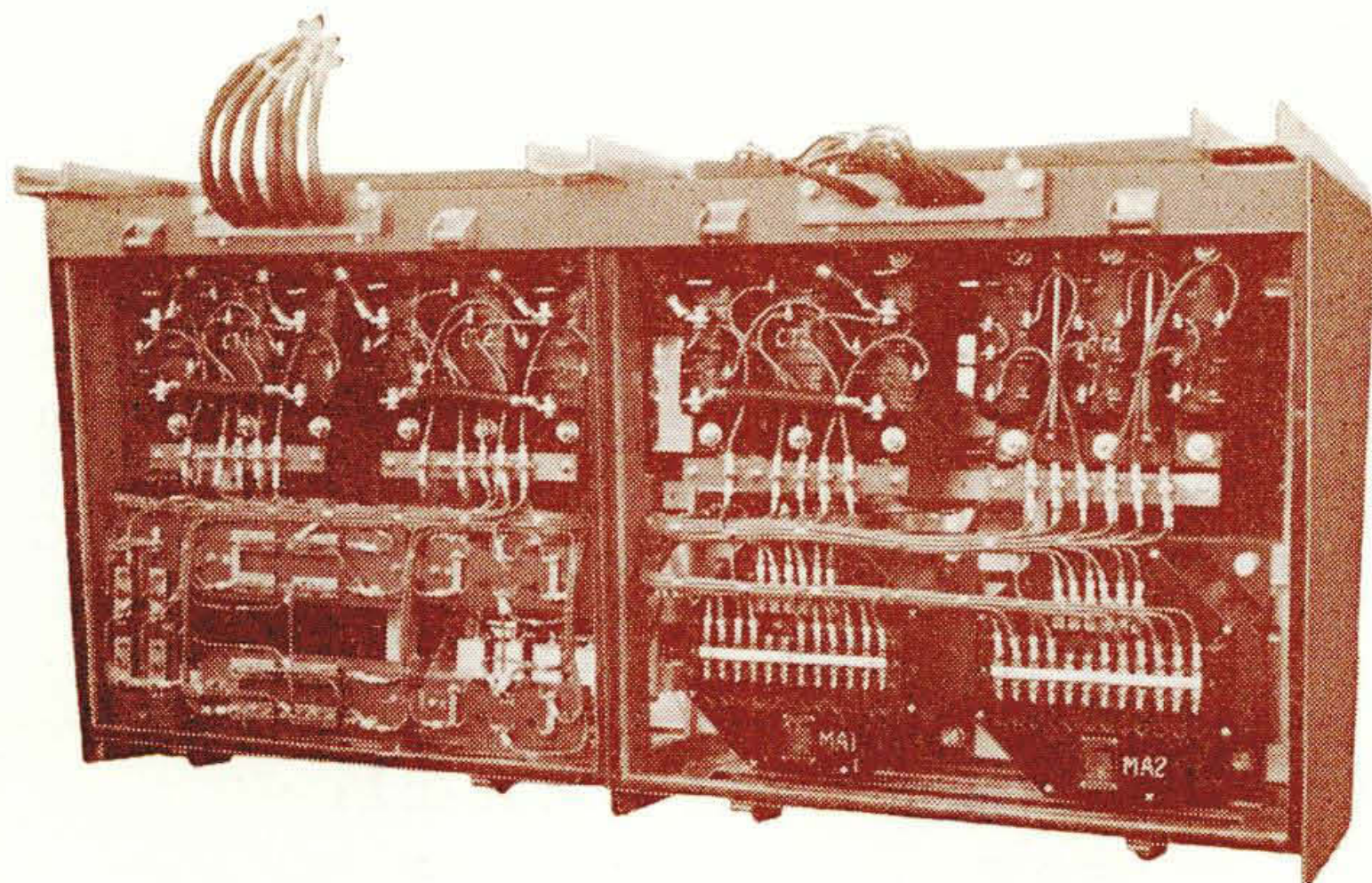
主 要 要 目

電動発電機	
形 番 号	HG-534-Cr
	(直流電動機) (交流発電機)
定 格	 連続..... 連続
形 式	 EFCO-SP..... EFCO-R
容 量	 70 kW (入力)..... 65 kVA (出力)
電 圧	 600V..... 220V
相 数	 — 3φ
周 波 数	 — 60~

力	率.....	—	80%
制	回 転 数.....	1,800 rpm.....	1,800 rpm
御	装 置		
方	式.....	磁気増幅器および可飽和リアクトルによる自動制御方式	



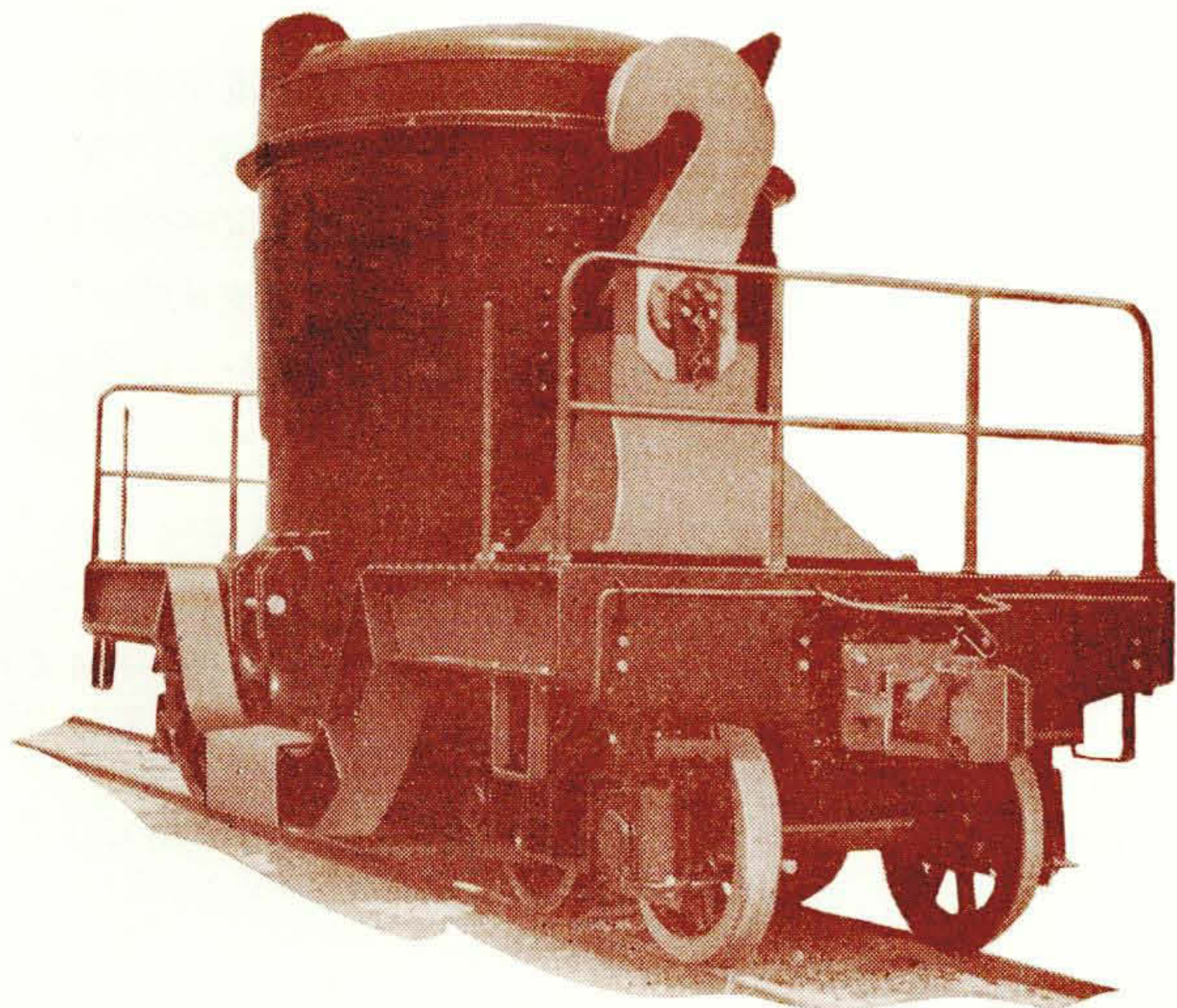
第3図 65 kVA 電動発電機



第4図 自動調整器

大阪製鋼株式会社 西島工場納 50 t 積 熔 銑 鍋 車 完 成

大阪製鋼株式会社から受注した50 t 積溶銑鍋車1両が、このほど日立製作所水戸工場において完成した。これは先の40 t 積溶銑鍋車2両に引続き受注したものである。



第5図 50 t 積 熔 銑 鍋 車

この50 t 積溶銑鍋車は製鉄用車両の製作担当が笠戸工場から水戸工場に移管されてから完成した第1号の製鉄用車両である。

これらの溶銑鍋車は溶鋼を高炉から受け平炉平場あるいは銑銑機などへ運搬するために使用されるもので、鍋ぶたは固定ぶた式でぶたを着脱することなく溶銑の積みおろしができ、熱の放散も極力少なくする構造になっている。このような固定ぶた式はわが国ではめずらしい方式のものである。銑銑機への注銑は鍋を台車上に乗せたまま鍋をクレーンにより傾倒する構造である。

主 要 要 目

軌 間.....	1,067 mm
車 体 寸 法 全長(連結面間).....	7,410 mm
幅.....	2,600 mm
高さ.....	4,000 mm
自 重 (台車).....	18.5 t
(鍋レンガを除く).....	12 t
積 載 荷 重 (溶銑).....	50 t
鍋.....	鋼板熔接構造(レンガ内張り)

ブラジルへ渡るディーゼル機関車

今回新しくブラジルへ建設される日伯合同出資の製鉄所で使用されるものとして、日本ウジミナス株式会社から受注した35 t ディーゼル機関車6両と40 t ディーゼル機関車3両が、このほど日立製作所笠戸工場において完成した。

これは、ブラジルのミナスジェライス製鉄所インテンデンテ、カマラ工場の、主として構内運輸用として納入するもので、日立製のディーゼル機関車がブラジルへ渡るのは初めてのことであり、現地での活躍が期待されている。

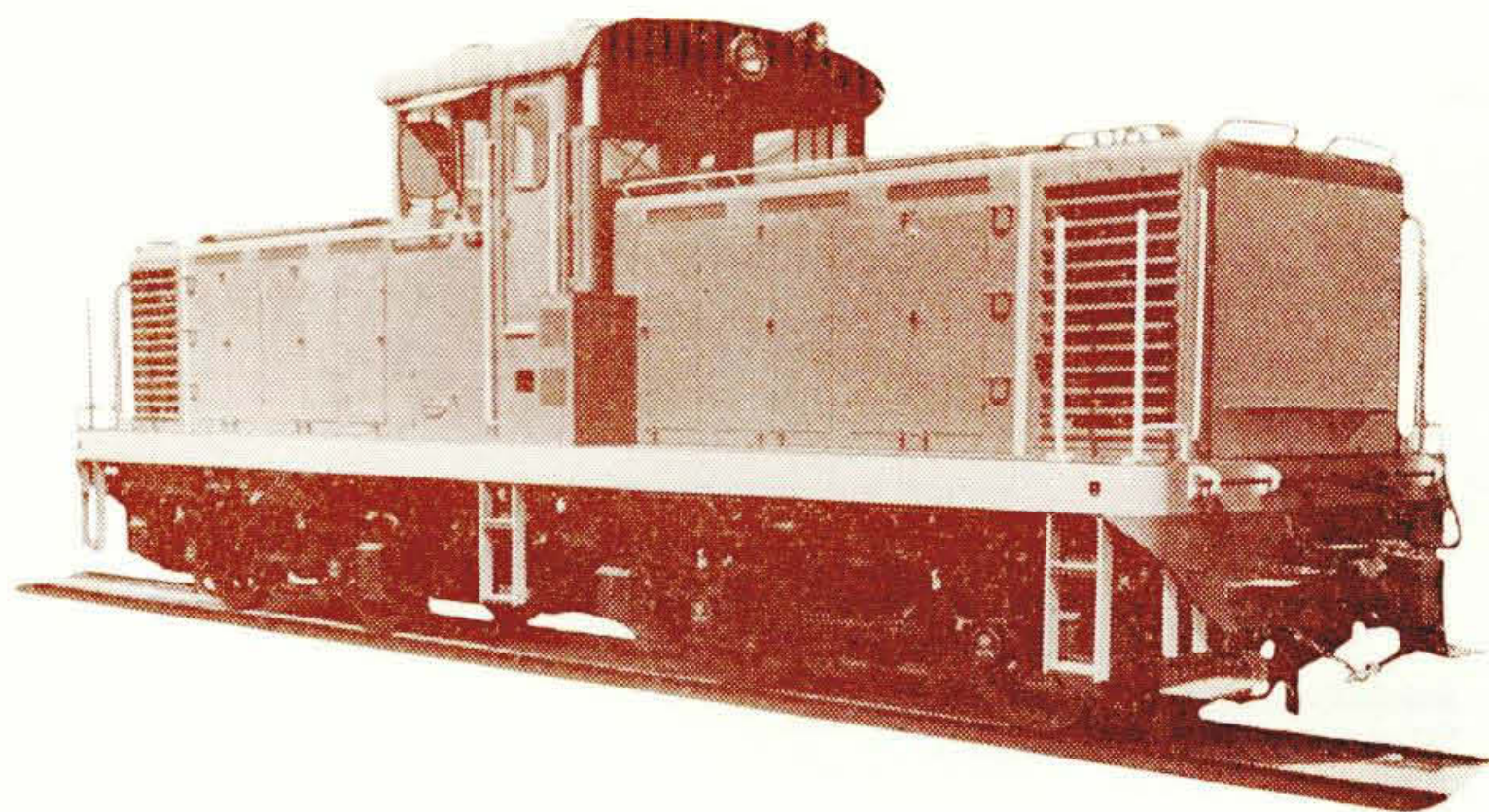
この機関車はディーゼル機関と液体変速機をおのおの2台搭載した中央運転室形で、入換用として、日立製作所の標準形式である。

運転室が中央にあるので前後の見通しが良く、機関、液体変速機は防振支持してあるので振動が伝わらず、乗務員の疲労が少ない。

台車は急曲線を通過できるように考慮してあり、半径50 mの曲線を通過できるボギー台車を使用した。

おもな仕様(35 t と 40 t 共通)

車 軸 配 置.....	B-B
車 体 寸 法(mm) 長×幅×高.....	11,050×2,700×3,780
最 大 速 度.....	32.7 km/h
ディーゼル機関.....	DMH 17 C × 2 台
液 体 変 速 機.....	D B 115 × 2 台



第6図 35 t, 40 t ディーゼル機関車

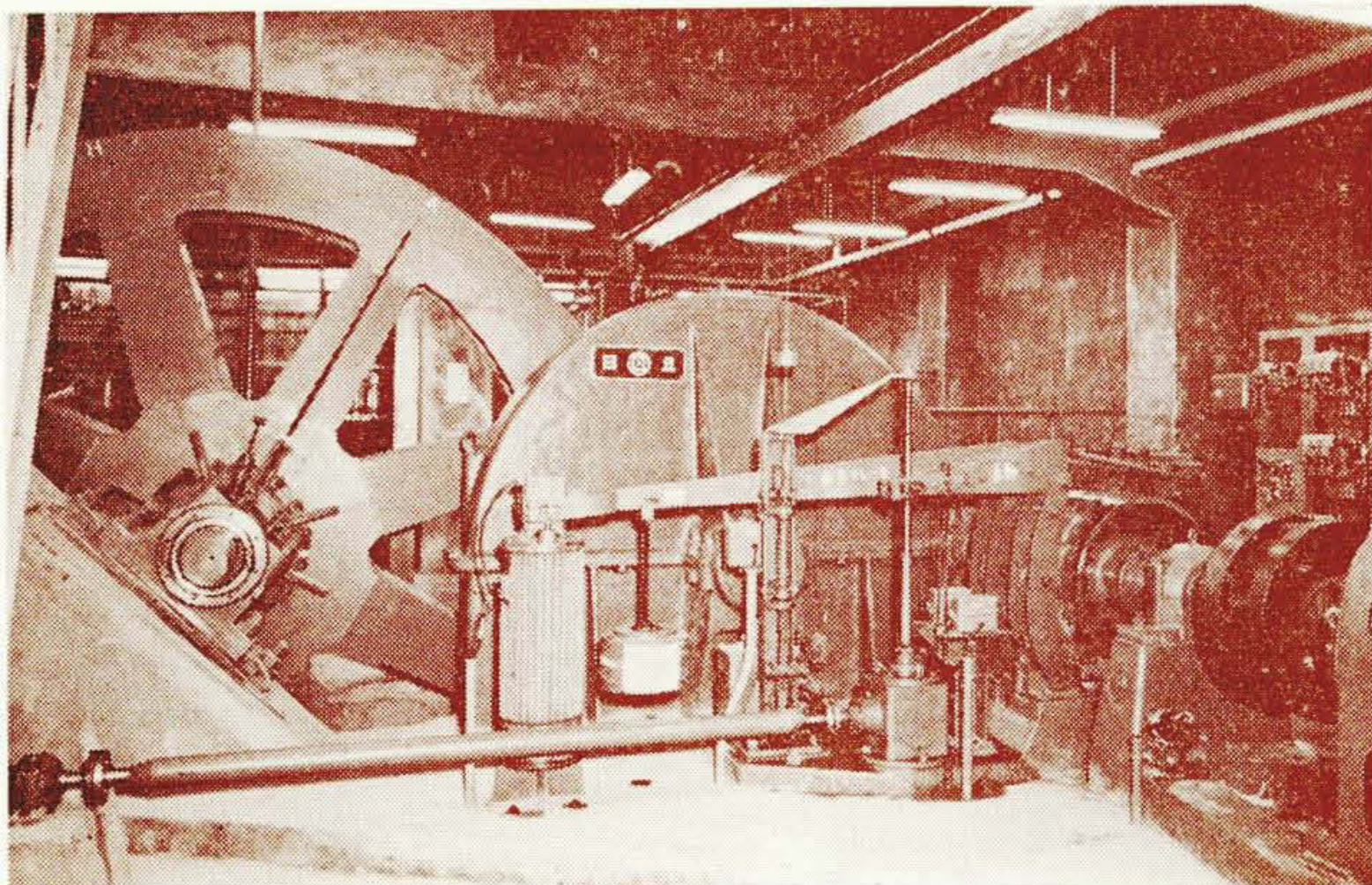
伊香保ケーブルカー運転開始

新伊香保駅から榛名駅までの 2.1 km という、わが国最長のケーブルカー設備が完成、官庁監査も無事に終了し 7 月 24 日から営業運転にはいった。伊香保ケーブルカーは第 2 次大戦中撤去されていたが、このほど、巻上機、車両などを新製し復活したもので山上にはホテルも新設された。

これにより榛名湖畔への観光は四季を通じて盛況を呈するものと大いに期待されている。

おもな仕様

全長	2,100 m
線路こう配	最急..... 350%
	最緩..... 150%
客車定員	120 人
鋼索直径	39mm
巻上機形式	EVD-NPHR
索輪直径	3,400 mm
鋼索張力	7,500 kg
電動機	150 kW 三相誘導電動機
	× 2 台
鋼索速度	3.5 m/S
信号方式	半波コード式
信架線	複線式



第 7 図 巻上機室



第 8 図 120 人乗ケーブルカー

ワイヤスプリングリレーの開発と量産について
「大河内記念生産賞」受賞

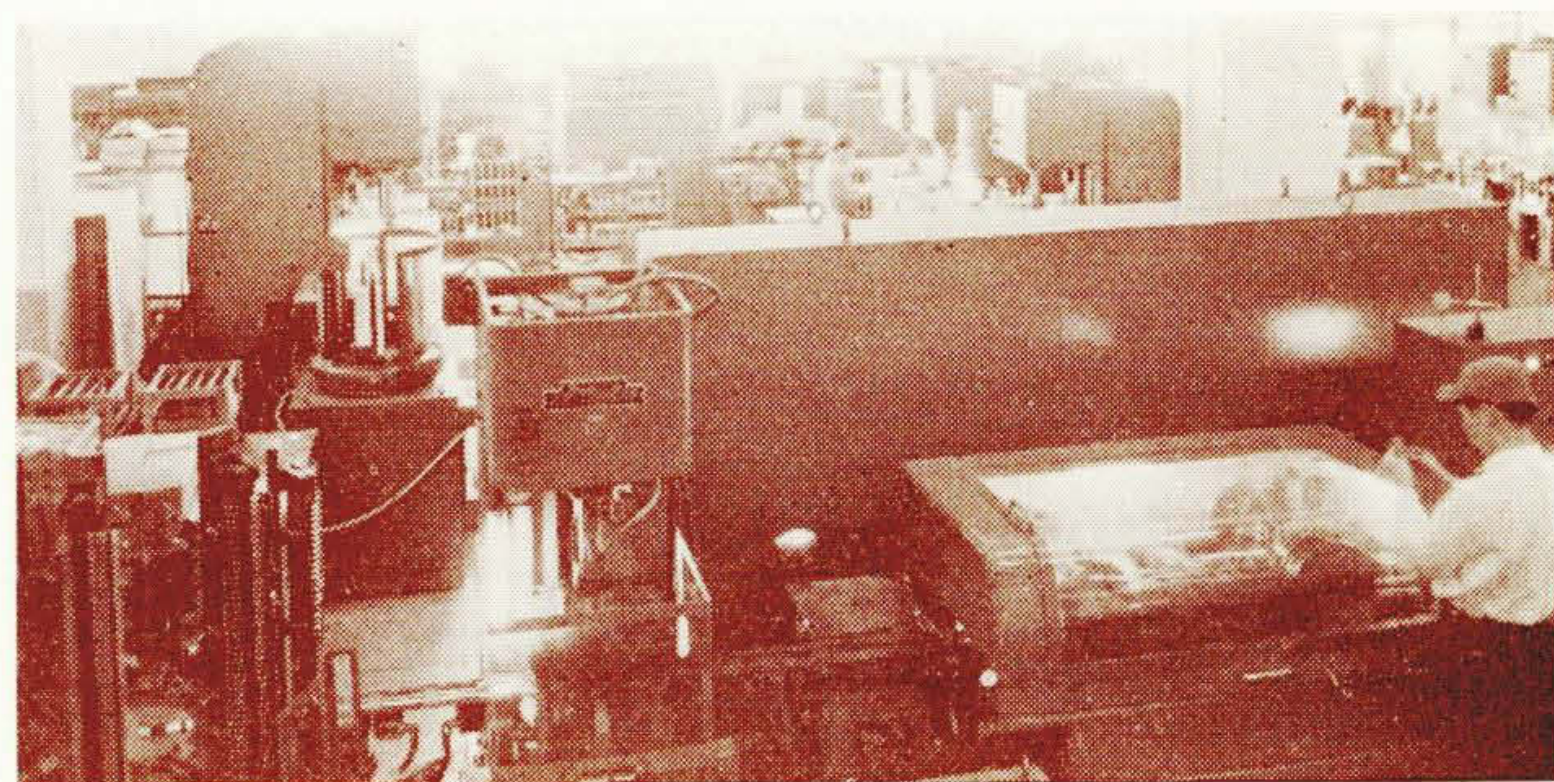
日立製作所戸塚工場は、このたび「ワイヤスプリングリレーの開発と量産」について、通信機事業におけるその意義が認められ「大河内記念生産賞」を受賞した。

ワイヤスプリングリレーは、クロスバ自動交換機に使用する一般用継電器として開発実用化されたが、そのすぐれた性能が認められ、現在は汎用継電器として各種電子装置、制御装置などにも広く使用されるに至っている。

日立製作所は、クロスバ自動電話交換方式の本邦導入に伴い、昭和 29 年以来最重要機器であるワイヤスプリングリレーの国産化に鋭意努力してきた。すなわち同継電器の実用化には、数多くの新しい高度な技術的問題の解決と量産時の性能保証を必要とするが、これらについては基礎技術の検討および確立を行い、また日本電信電話公社の指導により、組織的な工場実験を繰返して、すぐれた特性を持つ製品の量産化に成功した。

またこの継電器は、とくに大量生産に適した構造を持っているので、品質と生産性の一層の向上をはかることができた。このため継電器自体の開発と併行し、製造方式の自動化を進め、同継電器の主要部品であるワイヤモールドの加工は、トランスファーマシン方式の自動生産設備を採用し、多工程のプレス成形、接点熔接、絶縁抵抗検査など一連の工程を連続自動化した。この方式は通信機工業としては画期的なもので、実現にはさらに高度の技術的検討を必要としたが、幾多の障害を克服して、すぐれた特性の製品の量産態勢を確立することができた。

今回の受賞は、このようなワイヤスプリングリレーの開発実用化と量産態勢の実現に対するものであるが、同継電器は今やその用途を多方面に拡大しており、これら需要にこたえていっそうの努力が続けられている。



第 9 図 ワイヤスプリングリレー量産設備

テトロン布基材積層板および MCL

電気絶縁用積層板、印刷回路用銅ハク張り基板(MCL)はさらに高度の特性、機械加工性が要求されるようになり、この目的により日立製作所ではテトロン布基材の積層板とMCLを開発した。

テトロン布基材のものはガラス布基材に望めないようなすぐれた常温打ち抜き加工性を有するとともに電気絶縁性、耐湿性などもすぐれている。また加工時のそり、ねじれの補正も容易であり、高級通信機器、電子機器、計器類に広く賞用されている。

テトロン布基材積層板およびMCLの性能は第 1 表、第 2 表に示すとおりである。

第 1 表 エポキシテトロン積層板の特性

項 目	品 種	エポキシテトロン積層板 LE-97N	エポキシガラス積層板 LE-61N
貫層耐電圧 (kV/mm)		>18	>15
沿層絶縁抵抗 (2時間煮沸後MΩ)		10 ⁴ ~10 ⁶	10 ² ~10 ⁵
誘電正接 (IMC)		0.02~0.04	0.03~0.05
誘電率 (IMC)		3~4	4~6
へき開強さ (kg)		>400	>400
耐熱性試験温度 (°C)		140	180
打ち抜き加工性 (ASTM)		70点以上	—

第2表 エポキシテトロンMCLの特性			
品 種		エポキシテトロンMCL MCL-E-97	エポキシガラスMCL MCL-E-61
項 目			
接 着 強 さ (kg/cm)		1.4~2.2	1.4~2.2
耐 熱 性 (ハンダ浸漬)		230℃-10秒以上	230℃-10秒以上
沿層絶縁抵抗 (2時間煮沸後MΩ)		5×10 ³ ~5×10 ⁵	5×10 ³ ~5×10 ⁵
誘 電 正 接 (IMC)		0.02~0.04	0.025~0.045
誘 電 率 (IMC)		3~4	3~4
打抜き加工性 (ASTM)		70点以上	—

日立高周波用絶縁ワニス

WZ-110

高周波用電気絶縁ワニスとしては、その塗膜の誘電率、誘電正接の小さいことが要求される。とともに、そのほかの電気特性にもすぐれていなくてはならない。

今回、日立製作所で開発された高周波用電気絶縁ワニス WZ-110は、誘電率、誘電正接の小さい、絶縁抵抗の大きいワニスである。WZ-110 の用途として、通信機器、電子機器その他弱電機器の高周波特性を必要とするコイル、抵抗器、部品類などの含浸、接着または表面仕上げなどに用いられる。

第3、4表は特性を示す。

第3表			
試 験 項 目	特 性	試 験 結 果	
比 重 (20℃)	0.91 ± 0.03	0.911	
粘 度 (30℃) ポイズ	1 ~ 5	2.5	
不 揮 発 分	25 ± 3	25.1	
乾 燥 時 間 (常温) 時 間	< 4	2.5	
体 積 抵 抗 率 Ω-cm	> 10 ¹⁴	> 10 ¹⁵	
塗 膜 の 外 観	良好であること	良	

使用シンナーは、日立シンナー S-110 が適している

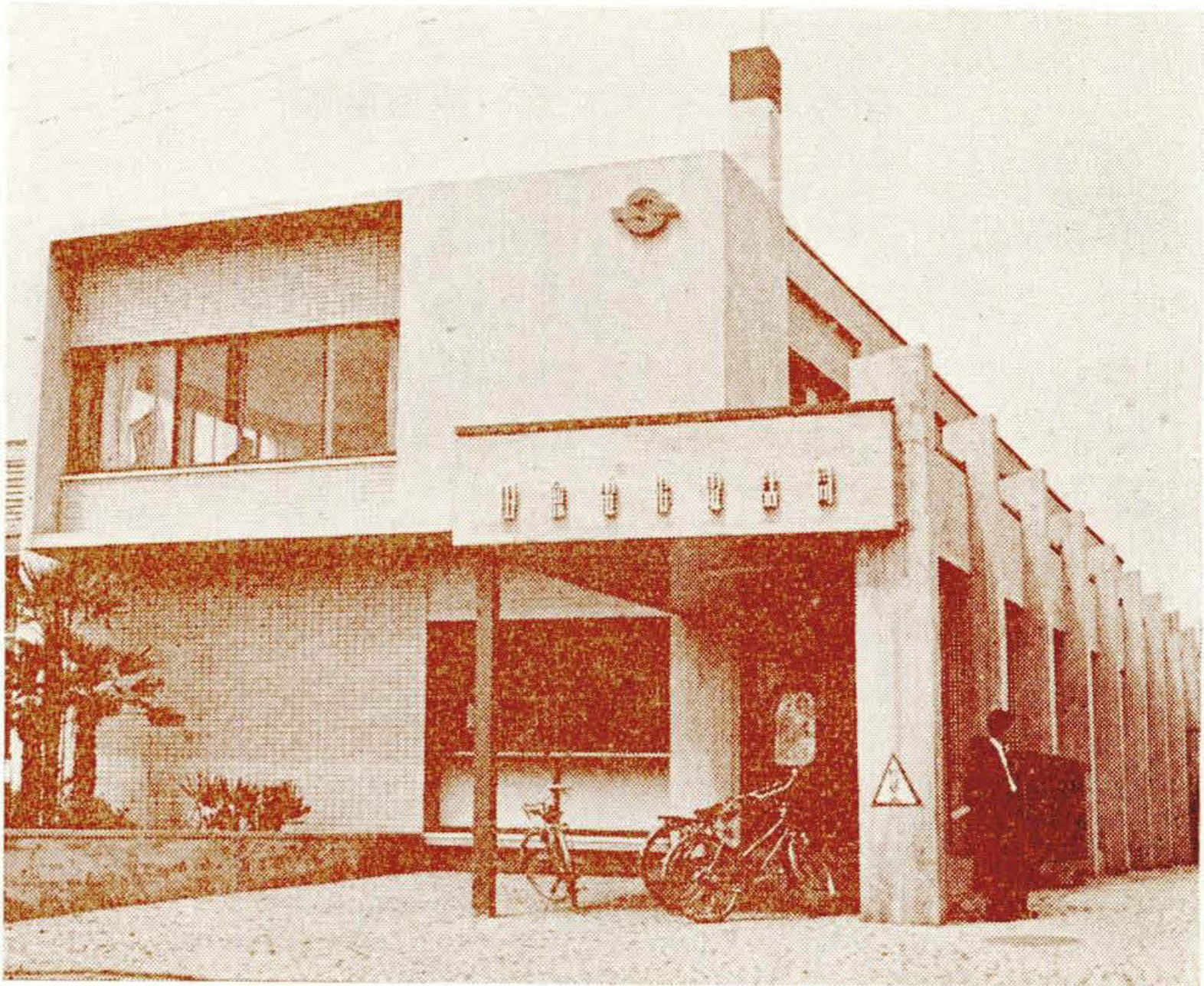
第4表			
周 波 数 (c/s)	誘 電 率 (ε)	誘 電 正 接 (tanδ)	
30 c	2.7	0.19	
60 c	2.7	0.16	
120 c	2.7	0.12	
300 c	2.7	0.091	
3 kc	2.7	0.058	
10 kc	2.7	0.053	
100 kc	2.7	0.068	
1 Mc	2.7	0.015	
3 Mc	2.7	0.46	

日本電信電話公社 田無、大村電話局開局

かねて日立製作所より納入、工事中であったクロスバ式 5,500 回線の田無電話局(東京都下)とストロージャ式 2,000 回線の大村電話局(長崎県)が、田無局は5月14日、大村局は5月27日にそれぞれ無事開局し、好調にサービスを開始した。

田無局は本局の加入者数 5,500 回線の端局で(従局の保谷局は500回線)、大正12年設置して以来実に38年ぶりに一躍自動式に改式されたものであり、機器には最新のクロスバ41形、51を使用、東京近郊への自動即時通話も可能となった。

大村局は本局の加入者 2,000 回線の集中局であり(従局の竹松局は500回線)、機器は6号形ラインスイッチ、ラインファインダの混合方式で、加入者の呼量の閑繁を調整するようになっている。この



第10図 東京田無電話局

局も昭和24年設置された共電式から自動式に改式になったものである。

なお田無局は 2,000 回線、大村局は 500 回線の加入者増設が計画発注され、目下日立製作所戸塚工場において鋭意製作中であり、ともに将来の発展が期待される局である

オールトランジスタ式テープレコーダ

「ベルソーナ」TRQ 720 発売

日立製作所では、このほど“ベルソーナ”の第2弾として、7号テープ使用、押ボタン操作になるオールトランジスタ式で、特に音質に重点をおいた“ベルソーナ”TRQ-720 を発売した。

これは2ヘッド、2スピード、ダブルトラック方式で長時間にわたって忠実な録音、再生ができ、またこのクラスのテープレコーダでは類のない高能率、高忠実度を誇るだ円スピーカを前面に配し、高出力トランジスタ“2S B80”をプッシュプルに使用最大 3.5 W の高出力が得られるので、従来の真空管をしのぐ豊かな音量でしかも美しいハイファイ音を楽しむことができる。

さらにオールトランジスタであるためスイッチ・インと同時に動作するので、真空管式のように暖まるまで待つ必要がないので、と



第11図 「ベルソーナ」TRQ-720



っさの録音や再生に非常に便利である。またトランジスタ自体の寿命は半永久的であるため故障がはるかに少なく、マイクロホニック雑音やハム・ハウリングの心配も全くない。

なお本機は昨年の創業 50 周年記念展のさいに、日本で初めて完成した大形のオールトランジスタ式テープレコーダとして発表しその方面の注目をあつめた画期的製品である。

現金正価 45,000 円 (ダイナミックマイクロホンほか)
月賦正価 48,500 円 (付属品一式付)

おもな規格

使用トランジスタ..... 2SB73×2.2SB75×2.2SB89, 2SB80×2
テープ速度..... 19 cm/秒, 9.5 cm/秒
最大使用リール..... 7号(17.8 cm)リールまで使用可能
録音時間..... 19 cm/秒, 7号テープのとき往復1時間
9.5 cm/秒 2時間
録音方式..... 交流バイアス方式
消去方式..... 交流消去方式
トラック形式..... モノラル 半幅ダブルトラック
使用電源..... 交流 90~110 V 50 または 60~
消費電力..... 約 40 W
スピーカ..... 25×12 cm だ円形 P・M スピーカ
イヤホン..... E-211 クリスタルイヤホン
マイクロフォン..... HM-2001 ダイナミック形
モーター..... 4 極コンデンサ形
早送り, 巻戻し時間..... 7号テープで3分以内
外部スピーカーインピーダンス..... 3.5 オーム
出力..... 3.5 W(最大)
ワウ・フラッタ..... 0.3% 以下
周波数特性..... 19 cm/秒のとき 75~10,000~
9.5 cm/秒のとき 100~5,000~
外形寸法..... 幅 42 cm 高さ 21 cm 奥行 35 cm
重量..... 約 13 kg

日立ステレオの新鋭 4 機種を発売

さきごろ日立製作所横浜工場では、無響室、試聴室などの研究設備の完備、新製品の開発、量産設備の拡張をしたが、このほどその成果ともいべきステレオの新製品 4 機種を発売した。これらはいずれも家電品の新しい分野としてステレオにいちはやくのり出した日立が、いままで駆使してきたグランドホニックの技術を生かして設計したもので、どの機種も顕著な音質の向上を誇っている。

1. DPS-531

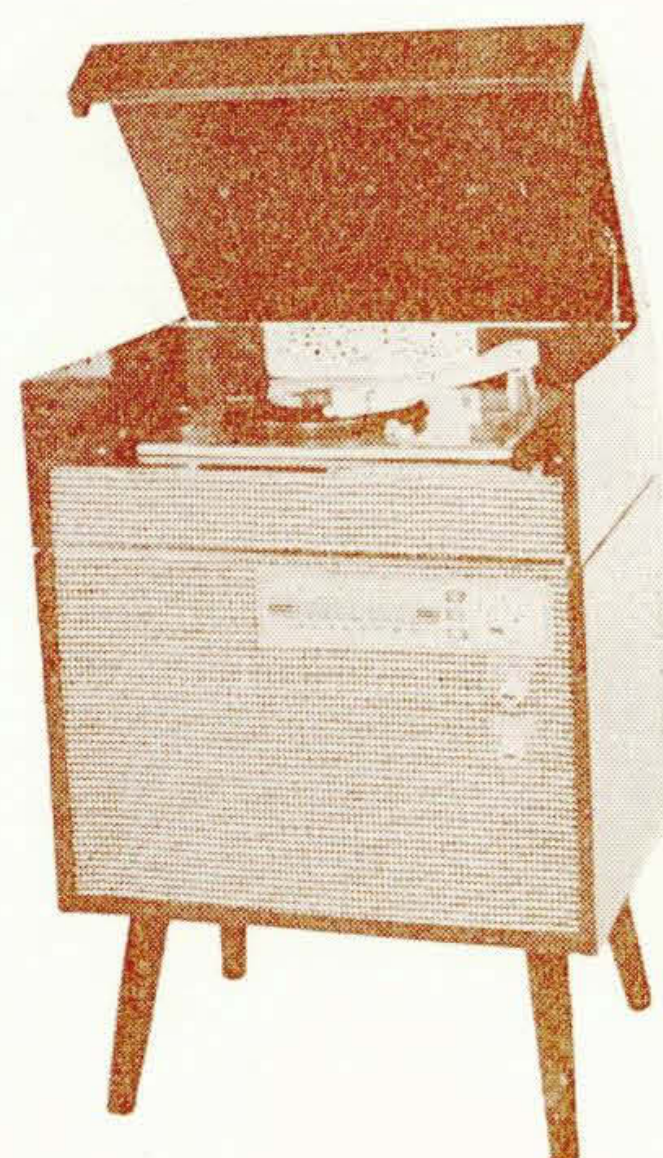
一般家庭用としてせまい部屋でも、置き場所によってはスピーカボックスとプレーヤを分離して配置でき、さらに足をはずして卓上形にもできるなど便利でコンパクトな設計になっており、団地やアパートに最適である。

セット全体は、4 スピードステレオプレーヤ (DPO-531) と、5 球 2 バンドラジオ (SG-531) の組合せで、ステレオをきくときは SG-531 を 2 台併用する。

キャビネットは、高級木製に 16 cm スピーカ内蔵で音響効果が素晴らしい。

価 格

(DPS-531)	ステレオ・シリーズ (3点組合せ)	シングル・シリーズ (2点組合せ)	プレーヤ DPO-531	ラジオ SG-531
現金正価	36,000円	23,000円	10,000円	13,000円
月賦正価	39,300円	25,100円	10,900円	14,200円



第 12 図
DPS-531



おもな規格

DPO-531

ピックアップ..... ターンオーバー式クリスタルロネット
タイプ 針圧 7 g
モーター..... 日立 4 スピードインダクション (マグネチックレギュレータつき)
ターンテーブル..... 17 cm (45 回転盤用アダプターつき)
消費電力..... 20 ボルトアンペア
大きさ..... 幅 45 cm 高さ 13.5 cm 奥行 32 cm
重 さ..... 約 5 kg

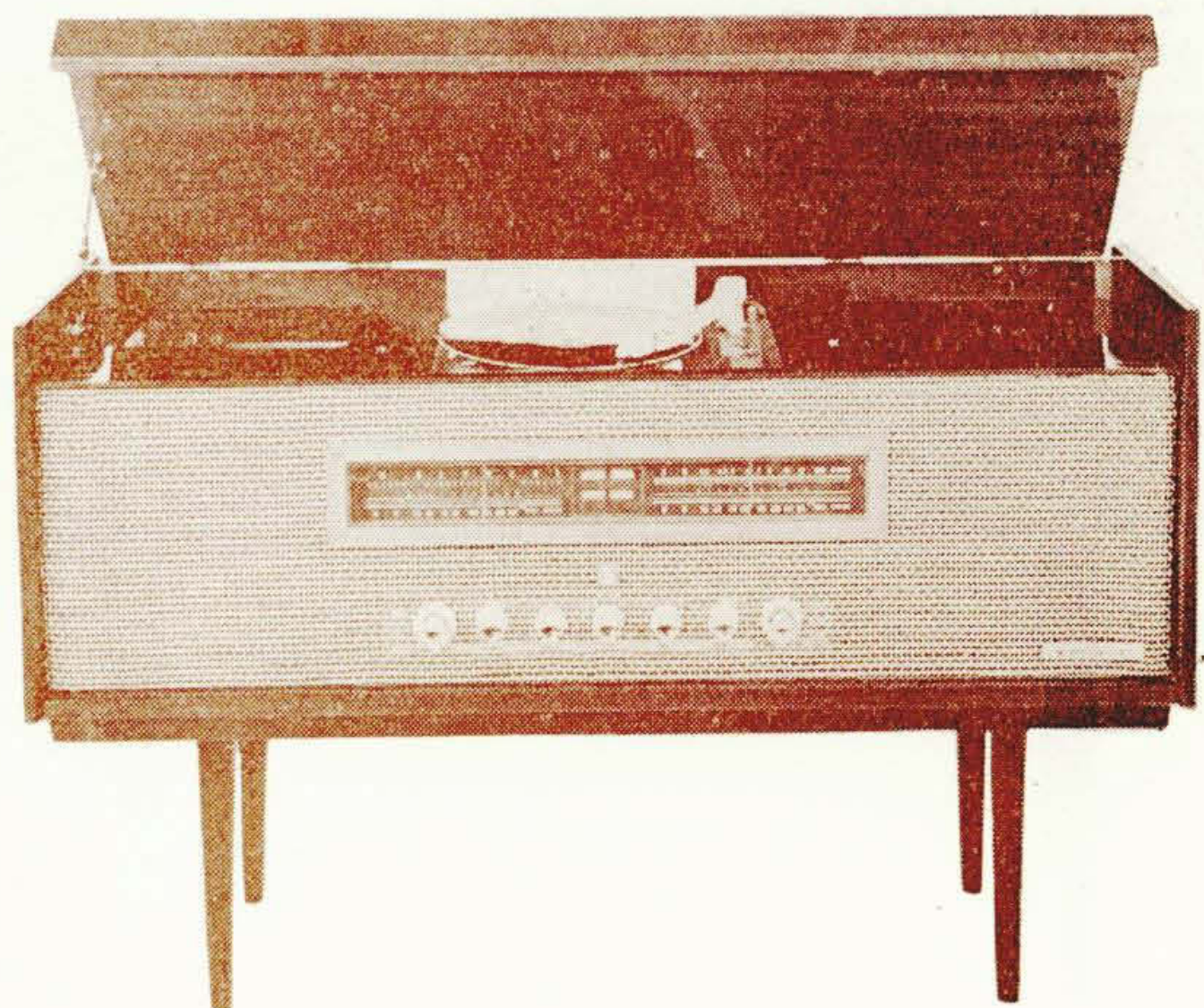
SG-531

受信周波数帯..... 短波 (SW) 3.8~12 MC 中波 (BC)
535~1,605 kc
使用真空管..... 12BE6, 12BA6, 12AV6, 30A5, 35W4
スピーカ..... 日立 16 cm P・M 形
消費電力..... 25 ボルトアンペア
大きさ..... 幅 45 cm 高さ 55 cm 奥行 32 cm
重 さ..... 6.4 kg

2. DPS-849

ステレオとして、もっとも手頃な 3 万円クラスで、音質、デザインともに高級なみのデラックス型である。横に大きく広がったキャビネットによる音の広がり、いままでこのクラスのステレオに見られない 20 cm の大形 2 スピーカの内蔵ですばらしい立体音を満喫できる。

プレーヤ (DPU-849) と、ラジオ (SG-849) の組合せで、ラジオは 8 球 2 チャンネルになっているから、レコードのステレオも、ラジオのステレオもこのままで楽しめる。



第 13 図 DPS-849

日立 ニ ュ ー ス

価 格			
(DPS-849)	プレヤ・ラジオ 2 点 組 合 せ	プ レ ヤ DPU-849	ラ ジ オ SG-849
現 金 正 価	38,000円	5,000円	33,000円
月 賦 正 価	40,500円	5,500円	35,000円

おもな規格

- DPU-849
ピックアップ.....ターンオーバー式 ステレオクリスタル
ピックアップ(サフティヤ針つき)
モ ー ト ル.....4スピードインダクションモートル
(マグネチックレギュレータつき)
ターンテーブル.....17 cm ゴムカバーリングつき
消 費 電 力.....20V A
大 き さ.....幅 32 cm 高さ 11 cm 奥行 22 cm
重 さ.....約 2.2 kg
- SG-849
受信周波数帯.....短波 3.8~12 Mc 中波 535~1,605 Kc
使用真空管.....12B E 6×2, 12B A 6×2, 12A V 6×2, 30 A 5
×2, HR 25 (シリコン整流器)
消 費 電 力.....50V A
ス ピ ー カ.....日立 20 cm P・M スピーカ 2 個
大 き さ.....幅 100 cm 高さ 70 cm 奥行 33 cm
重 さ.....約 15 kg(脚なしのときの高さ 36 cm)

3 DPS-961

トランス付の9球2バンド2チャンネルステレオで、プレヤ(DPO-961)と、ラジオ(SG-961)を組合わせたものである。

出力段には高出力、低歪率の6AQ5真空管を使用し、無歪い出力は左右合わせて6Wも発揮できる。スピーカはアルミニウムボイスコイルを使った20cmの大形スピーカで、フィードバック回路の併用により、ひずみ、周波数特性の改良を計ったので豊かなハイファイ立体音が楽しめる。

DPO-961は、プラグイン式ピックアップ付4スピード切替え、ステレオバランサ、音量調節をつけたユニットになっている。



第 14 図 DPS-961

価 格			
(DPS-961)	プレヤ・ラジオ 2 点 組 合 せ	プ レ ヤ DPO-961	ラ ジ オ SG-961
現 金 正 価	48,500円	11,000円	37,500円
月 賦 正 価	51,300円	11,800円	39,500円

おもな規格

- DPO-961
ピックアップ.....クリスタルロネットタイプ針圧 7 g
SP・LP.....ターンオーバー式
ST(ステレオ).....プラグイン式
モ ー ト ル.....日立 4 スピードインダクション
(マグネチックレギュレータつき)
ターンテーブル.....17 cm (45 回転用アダプタつき)
消 費 電 力.....25 ボルトアンペア
大 き さ.....幅 33 cm 高さ 12.7 cm 奥行 25.2 cm
重 さ.....2.9 kg
- SG-961
受信周波数帯.....短波 (SW) 3.8~12 MC
中波 (BC) 535~1,605 kC
使用真空管.....6 B E 6×2, 6 B A 6×2, 6 A V 6×2
5 R K 16, 6 A Q 5×2
ス ピ ー カ.....日立 20 cm P・M 形 2 個
消 費 電 力.....80 ボルトアンペア
大 き さ.....幅 1.03 m 高さ 81 cm (脚なしのとき
46 cm) 奥行 35 cm
重 さ.....約 26 kg

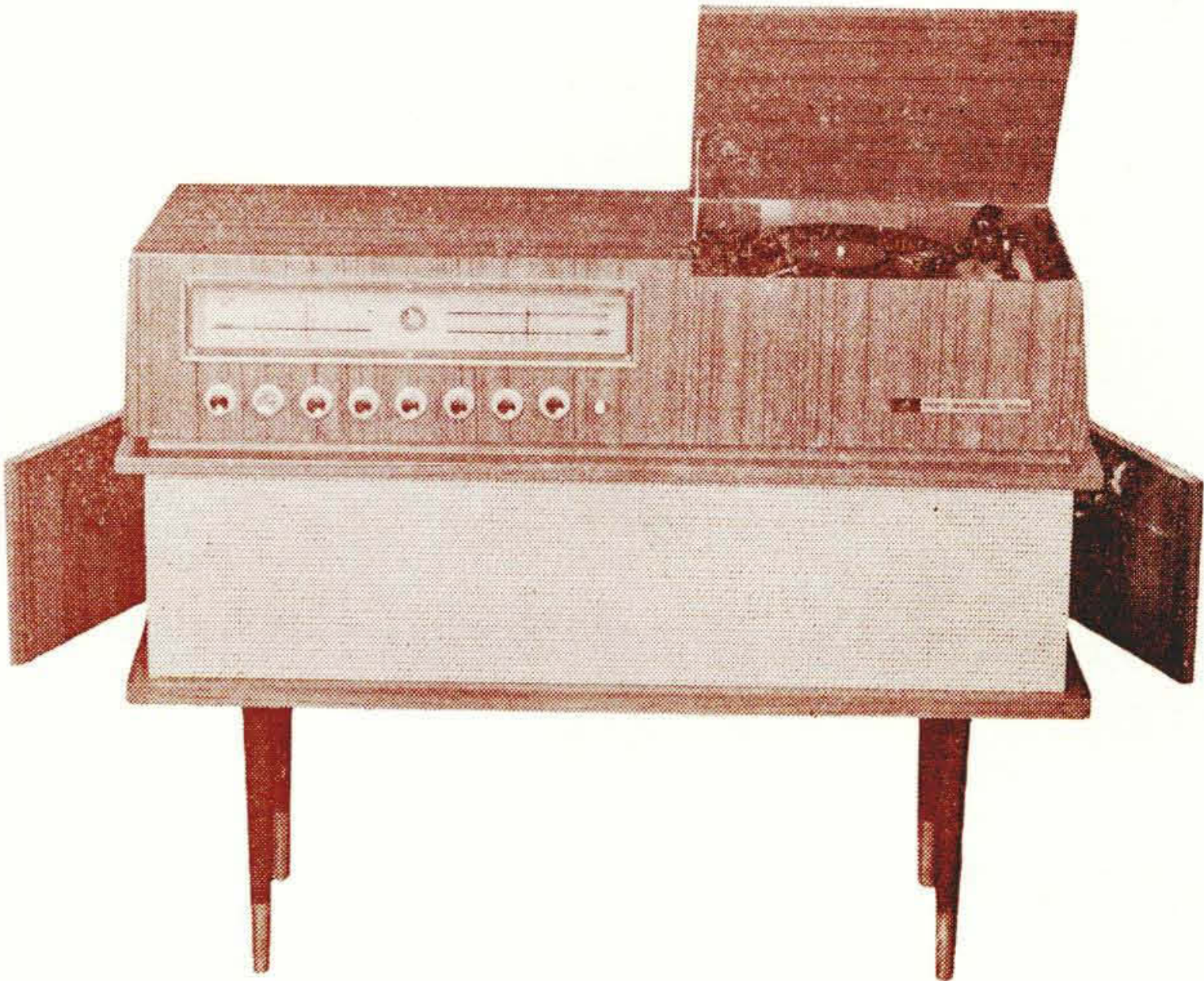
4 DPS-956

前記のDPS-961をさらに高級化したもので、DPO-961とSG-956から構成されている。

出力管には日立“6BQ5”を使用して無歪い出力が左右で7Wに増加しており、20cmと16cmのアルミニウムボイスコイルのスピーカ4個を使っている。左右両側面にはリフレクター(音響反射板)をつけたので音の向きを自由に変えることができ、豊かで迫力にみちたステレオを心ゆくまで味わうことができる。

またキャビネットは今までのカラーを破った欧州タイプで、美しい木目を生かした落つきと、豪華さを兼ね備えた斬新なものである。

価 格			
(DPS-956)	プレヤ・ラジオ 2 点 組 合 せ	プ レ ヤ DPO-961	ラ ジ オ SG-956
現 金 正 価	53,500円	11,000円	42,500円
月 賦 正 価	56,300円	11,800円	44,500円



第 15 図 DPS-956



おもな規格

DPO-961

ピックアップ.....	ステレオクリスタル ピックアップ (サファイヤ針つき)
モーター.....	4スピードインダクションモーター (マグネチックレギュレータつき)
ターンテーブル.....	17 cm ゴムカバーリングつき
消費電力.....	25 V A
大きさ.....	幅 34 cm 高さ 12.7 cm 奥行 25.2 cm
重さ.....	2.9 kg

SG-956

受信周波数帯.....	短波 3.8~12 Mc 中波 535~1,605 kc
使用真空管.....	6 BE 6×2, 6 BA 6×2, 6 AV 6×2 6 AQ 5×2, 5 RK 16
消費電力.....	85 V A
スピーカ 低音用.....	20 cm P・Mスピーカ 2 個
中・高音用.....	16 cm P・Mスピーカ 2 個
大きさ.....	幅 104 cm 高さ 83 cm 奥行 34 cm
重さ.....	30 kg

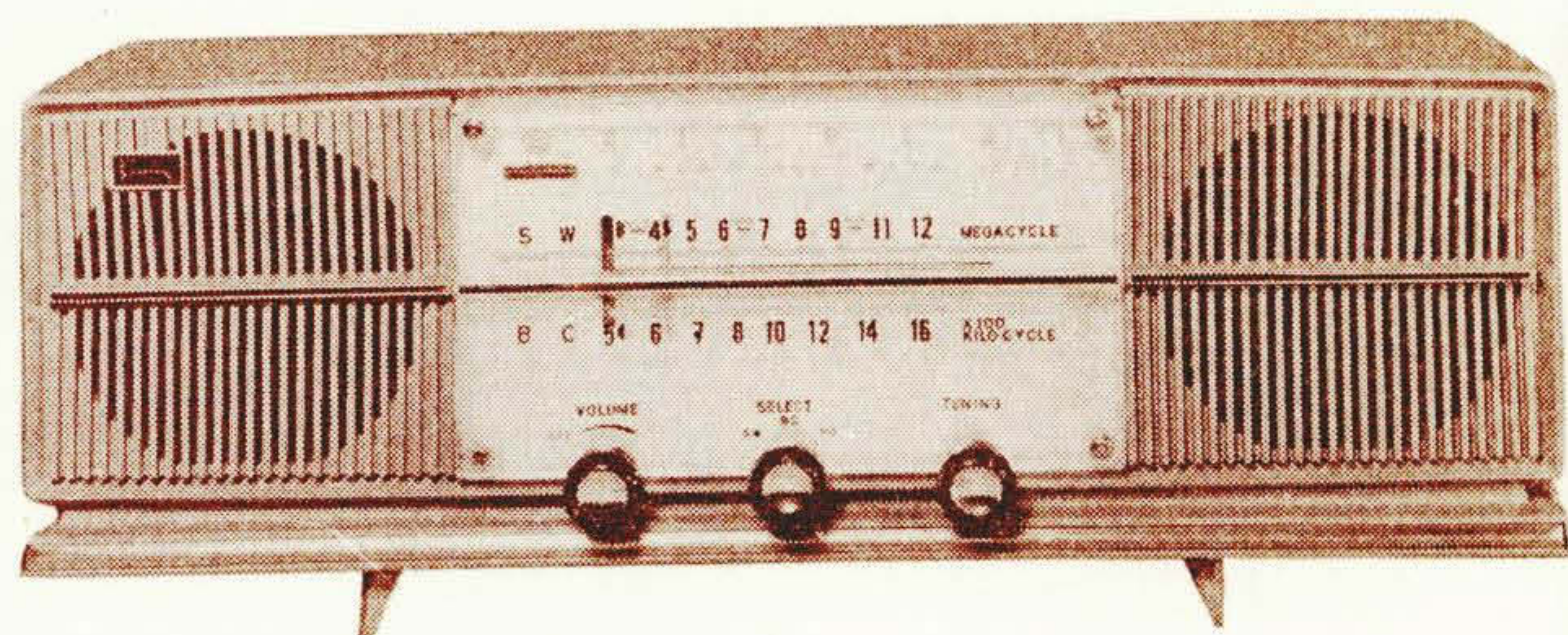
2 スピーカ付オールプリント配線
テーブルラジオ“エーダ”S-539 発売

音質の向上に力を入れている日立製作所では、このほど部屋のペ
ットラジオとして、小形で大形並の音質の2スピーカつきラジオ“エ
ーダ”S-539 を発売した。

現金正価 6,950 円、月賦正価 7,650 円

おもな特長

(1) 10 cm の日立強力スピーカを左右に配した2スピーカで、
幅の広い音源からゆたかな音量が得られる。



第16図 「エーダ」S-539

- (2) 配線は全部プリント配線で、品質にむらがなく、断線など
の故障もない。
(3) テープレコーダの併用で、好きな番組を手軽に録音できる
“録音端子”つき。
(4) レコードプレーヤのピックアップ接続端子つき。

規 格

回路方式.....	5球2バンドスーパーヘテロダイ ン
受信周波数帯.....	短波放送(SW) 3.8~12 MC 標準放送(MW) 535~1,605 kc
使用真空管.....	12 BE 6, 12 BA 6, 12 AV 6, 30 A 5, (日立) 35 W 4
感度階級.....	極微電界級
出力.....	1.5 W
使用電源.....	100 V 50/60~
消費電力.....	25 V A
スピーカ.....	日立 10 cm P Mスピーカ イヤホンソケット..... 2 個 (E-231 日立クリスタルイヤホ ーン使用)
アンテナ.....	長さ 3 m 室内アンテナ線付属
寸法.....	幅 432 mm, 高さ 165.5 mm 奥行 150 mm
重量.....	2.3 kg

.....編集後記.....

わが国における強制貫流ボイラは、従来産業用中容量以下のユニ
ットのみに限定されていたが、近年水処理技術の進歩とボイラ制御
技術の発達により、大容量の事業用においてもその優秀性が認めら
れて、多数採用されつつある。本号は、強制貫流ボイラ特集として、
「UPボイラについて」「強制貫流ボイラプラントについて」「超臨界
圧力テストプラント」「新清水発電所納B&Wベンソンボイラにつ
いて」なる4論文を掲載した。これらはいずれも斯界のために好個
の資料となる論文である。

◎

内外を問わず最近の通信機器、電子機器の驚異的な伸長は瞠目に
値する。これに伴ない大きな需要が叫ばれている配線用積層板とし
て、日立製作所では最近、高性能の、印刷配線用銅張り積層板を開
発、商品化して業界の要望に応えた。掲載論文「高絶縁、高強度、
可とう性、各種印刷配線用銅張り積層板」は、この新しい積層板

(MCL)の規格および特性について詳細な研究結果を発表し、先進
国たる米国のそれに少しも劣らないことを立証している。

MCLの開発は、前記の弱電機器、および強電機器の精度向上、
生産工程の合理化に大きな貢献をしているが、さらに進歩改良を目
指すためにも、この報告論文は重要かつ効果的なものである。

◎

巻頭の「一家一言」としては、東京電力株式会社寺田常務取締役
から、強制貫流ボイラ特集にふさわしく「火力発電」所感、と題す
る玉稿をいただくことができた。

大正末期から現在に至るまでのわが国の火力発電の力強い進歩と
今後のすう勢に言及し、火力発電設備の発達は、使用者とメーカー
が一体となって研究し勉強せねばならぬことを力説されたものであ
り、傾聴すべき至言である。

寺田常務取締役は、最近ことのはかご多忙であるにもかかわらず、
特に本号のために寸暇をさいてご執筆くださったもので、誌上をかり
て厚くお礼を申し上げる次第である。

日立評論 第43巻 第9号

昭和36年9月20日印刷 昭和36年9月25日発行

(毎月1回25日発行)

< 禁 無 断 転 載 >

定価1部 100 円 (送料16 円)

© 1961 by Hitachi Hyoronsha, Printed in Japan

乱丁落丁本は発行所においてお取りかえいたします。

編集兼発行人
印刷人
印刷所
発行所

長谷川 俊 雄
浅野 浩
株式会社日立印刷所
日立評論社

東京都千代田区丸の内1丁目4番地
電話 東京 (271) 0111, 0211, 0311
振替口座 東京 71824 番

取次店

株式会社オーム社書店
東京都千代田区神田錦町3丁目1番地
振替口座東京 20018 番 電話東京 (291) 0912